



【釈文】

- 一、室覚与申天台宗之山伏老人御座候御事
- 一 百姓家数 式拾軒
- 一 人数合 百三拾老人
- 一 馬数合 拾四疋
- 一、当村南北江拾五町、東西江式町式拾間程

御座候御事

大久保加賀守様御領

- 一、当村方真岡町市場江道法式拾町程御座候、  
但し五日、九日、十五日、十九日、廿五日、廿九日、壹ヶ月二六度  
ツ、市立申候、此処ニ而さらし木綿、大分売買  
仕候、其外塩、たは粉、薪、芝草、ぬか、わら、縄、

蕙売買仕候御事

増山兵部少輔様御領

- 一、当村方久下田町市場江道法壹里半余
- 御座候

但し三日、八日、十三日、十八日、廿三日、廿八日、壹ヶ月二六度  
ツ、市立申候、此所ニ而もめん、くりわた、塩、たは粉、  
薪、ぬか、わら、縄、蕙売買仕候御事

- 一、御料寺内村江道法壹里ノ余 未申ノ方当ル
- 一、同茅堤村江道法半道 未申ノ方当ル
- 一、日光山へ道法十三里半 戌方ニ当ル

【大意】

- 一、室覚という名の天台宗の山伏が一人います。
- 一、百姓の家数は二〇軒です。
- 一、村人は一三一人います。
- 一、馬は一四匹います。
- 一、下高間木村は南北に一五町(約一・七キロメートル)、東西は二町二〇間(約二六〇メートル)あります。

大久保加賀守の領地

- 一、下高間木村から真岡町市場までの距離は、約二・二キロメートルです。
- 真岡町では月に六回(五日、九日、十五日、十九日、二十五日、二十九日)、市場を開いています。(下高間木村の)人々は、市場で晒木綿を多く売買しており、塩、たばこ、薪、芝草、ぬか、わら、縄、蕙も売買しています。

## 増山兵部少輔の領地

- 一、下高間木村から久下田町市場までの距離は、六キロメートル以上あります。久下田町では月に六回（三日、八日、十三日、十八日、二十三日、二十八日）、市場を開いています。（下高間木村の）人々は、市場で木綿、繰綿、塩、たばこ、薪、ぬか、わら、縄、筵を売買しています。
- 一、幕領である寺内村は、下高間木村から南西の方角にあります。距離は四キロメートル以上あります。
- 一、同じく茅堤村は村から南西の方角にあり、距離は約二キロメートルあります。
- 一、日光山は村から西北西の方角にあり、距離は約五四キロメートルあります。

## 【史料の説明】

本史料は、下野国芳賀郡下高間木村（現真岡市）の明細帳（控え）です。芳賀郡は栃木県の県東部に位置します。

村明細帳は、村差出帳などの名称でよばれることもあり、現在の市町村勢要覧に当たります。村明細帳は、領主交代時などの際に作成され、領主が村勢を把握するため、村に書き上げさせたものです。村では、書式に基づき、村高・反別・年貢高・家数・産物などをまとめました。

写真は明細帳の一部ですが、下高間木村の人々が近隣の市場で売買したものが記されています。真岡町市場では晒木綿、久下田町市場では木綿、繰綿などが売買され、元禄十一年（一六九八）当時、真岡周辺で木綿の生産がなされていたことが分かります。また、本史料（写真以外の箇所）では、「女稼、木綿少々おり出し申候御事」と記されており、村の女性が農間に木綿織りをしていたことがうかがえます。

江戸時代、真岡周辺で織られた木綿は、江戸にも出荷され、真岡は木綿の有数の生産地として知られるようになりました。しかし、幕末以降、海外からの綿織物、綿糸輸入の影響を受け、衰退の一途をたどり、戦後には生産が行われなくなります。このような中、昭和六十一年（一九八六）、真岡商工会議所が中心となり、真岡木綿を復活させる取組がなされ、現在では小物類などの製品も作られています。なお、真岡木綿は栃木県の伝統工芸品の一つとなっています。

村明細帳に記されたことが、すべて正確な情報を伝えているとはいえない面もありますが、明細帳からは、江戸時代の村について多くの情報を得ることができます。村明細帳は、自治体史でも取り上げられており、活字で読めるものも多いので、地域調査、学校における地域学習の材料として活用することが可能です。

## 【主な参考文献】

真岡市史編さん委員会編『真岡市史 第七巻 近世通史編』（真岡市、一九八八年）

『とちぎの百様 大図鑑』（栃木県、二〇一六年）